

新型 US Accord のデザイン

Style and Design of New Accord for U.S. Market

澤 井 大 輔*

Daisuke SAWAI

田 上 秀 樹*

Hideki TAGAMI

萩 原 泰 一*

Taichi HAGIWARA

荒 木 圭 一*

Keiichi ARAKI

要 旨

新型 Accord は、Honda セダンに脈々と続く「先進」と「スポーティ」を基軸に、時代性に合わせた「ADVANCED & POWERFUL」というコンセプトキーワードで開発された。セダンに求められる信頼性と社会性に加えて個性を際立たせた、ミドルセダンのベンチマークを目指した。

エクステリアデザインは、セダンらしい堂々としたたたずまいと、ダイナミックな力強さを併せ持つ強い存在感を目指した。インテリアデザインはゆとりのある爽快感に上質でプレミアム性を加えた空間づくりを目指し、お客様に豊かさを感じていただける提案とした。

ABSTRACT

Honda sedans have always looked “Advanced” and “Sporty.” Continuing to build upon this theme, the new Accord was developed with the concept keywords of “Advanced & Powerful” to fit with the time. We sought to set a new standard in midsize sedans, combining the reliability and social nature required for a sedan with an unmistakable individuality.

For the exterior, the Accord was developed to assert a sense of presence that is stately, as well as being dynamic and powerful. For the interior, it is an invitation to enjoy a comfortable and refreshing environment infused with premium luxury.

1. はじめに

US マーケットでは8代目となる新型 Accord は、アジアにおいても年々存在感が高まり、世界中で年間70万台販売されるワールドカーに成長している。又、日本市場においても仕様を変更し、上級セダンとしてINSPIREの名称で販売される。

Accordは歴代に受け継がれているゆるぎない信頼性で多くのお客様に支持され、お客様の車に対する満足度も高い。しかし、このクラスのセダン市場は競争も激化しているうえに、大型ミニバンやSUVなど新ジャンルカーが台頭している現状の中で、Accordは明確な進化をさせ、存在感を上げる必要があると判断した。

AccordはUS マーケットではミッドサイズセダンのカテゴリの、いわばスタンダードであり、ファミリーカーの認識である。

しかし、主なお客様を分析したところ、意外なことに夫婦と子供というファミリーのお客様が30%以下である、という事実があり、ユーザ層に変化があらわれていた。

実際に多くのユーザにも会い、車の使い方等を徹底的に調べ、コンセプトからパッケージを再構築した。

ファミリーセダンから、社会性を持った、いわばビジネススーツのような存在のパーソナルニーズのセダンとして、コンセプトの方向性を変化させた。経済性や快適性の向上に加え、ステイタス性なども考慮し、より車をアップスケールに進化させた。

2. パッケージレイアウト

パーソナルニーズとして、セダンの使われ方をみていくと、通勤がメインとなる。毎日片道1時間程の距離をフリーウェイ走行するユーザも多い。そのためドライバが長時間

快適に過ごせる空間や、ストレス無く運転できる人間中心のパッケージを組み立てた。フロントピラーの位置を後方に移動し、断面形状も細くするなど、視界の良さも考慮した。フードが見えるようにすることで、車両感覚も掴みやすくなっている。また、このクラスのスedanユーザは自分の快適性だけではなく、助手席や後席に乘せる人のことも大切に考えている。友人夫婦と食事に出かける。あるいは、仕事でクライアントを車に乗せる機会も多いからである (Fig. 1)。

空間のありかたは、しっかりとおもてなしができる広さが必要だと考えた。17インチタイヤの採用や燃料タンク容量の拡大(65L から 70L)をしながら低床化をおこなうことで、FFの持つ室内空間の大きさはさらに進化させた。左右の人の間隔を 40mm 広げながら、センタコンソールに至っては、75mm も拡大することで1クラス上の車格感や上級感を表現した。リヤ席においても膝まわりを35mm拡大し、ミニバンやSUVにも劣らないゆとりのある空間により、セダンの新しい使い方も広がる提案とした (Fig. 2)。

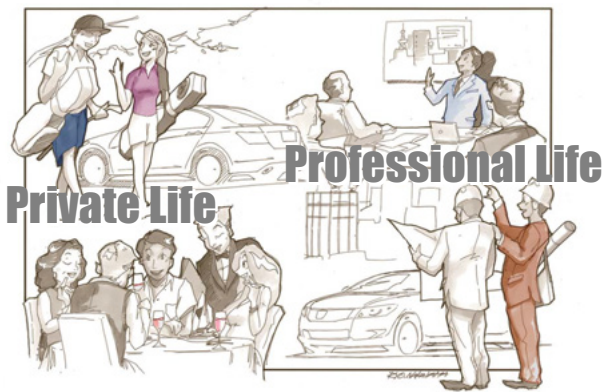


Fig. 1 Usage scenarios

3. エクステリアデザイン

エクステリアデザインでは、「ADVANCED & POWERFUL」をキーワードに Accord の進化を感じとれるデザインとした。

全体骨格は、ノーズ、キャビン、トランクがそれぞれ独立したいわゆるセダンらしい骨格にこだわった。フロントからリヤに骨が通っているような、背筋の伸びた姿勢をつくることを心がけた。CIVIC ではフロントピラーを前進させ、新しさを強調したフォルムとしているが、Accordでは逆にフロントピラーを後退させ、しっかりしたセダン骨格を強調した。これは、CIVIC と Accord の役割の違いを骨格でも表現したものである (Fig. 3)。

今までの Accord では、ノーズ先端を低くすることにこだわっていたが、新型では厚みのある押し出しを感じさせるものとし、コーナを大胆に削ぎ落とす造形で、セダンの格の表現とスポーティさの両立を図った。

大型化されたキャビンは、ともすると四角い箱型になりかねないが、ルーフラインには丸みを持たせ、空気抵抗の低減効果もねらった三次元的に絞り込んだ処理などにより、立体的で軽快さを感じさせる見え方とした。加えて、深絞りプレスフェンダとアウトパネルにより、四つのタイヤがしっかりと大地に踏ん張っているように幅を強調することでスタンスの良さをつくりだしている (Fig. 4)。



Fig. 3 Side view

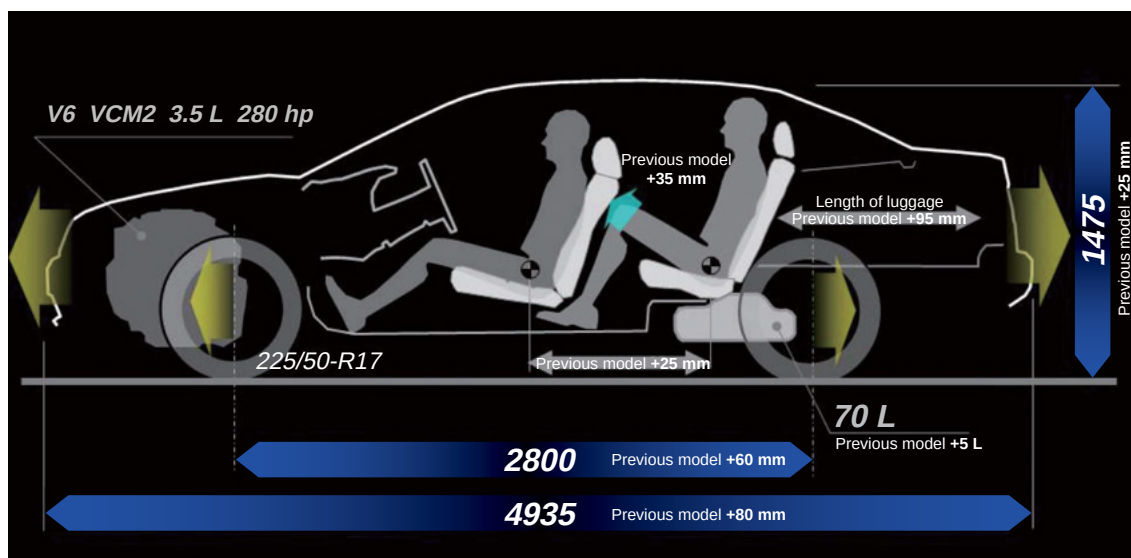


Fig. 2 Package layout

豊かさを感じさせるボデーセクションは、外光の下で作りあげた。周囲の環境の映りこみにより、より立体的に感じる見え方をねらった。特に美しい空のグラデーションの映りこみで表情を見せるねらいで、上を向いたフード面に抑揚を持たせた。ショルダも同じように空の色を映しこむことで、強い張りを感じさせている。彫刻刀で彫ったような大胆なキャラクタラインも、強い太陽光の下、または曇天の沈んだ風景のなかでも、しっかりと主張できるようにした。

フロント廻りは、ダイナミックな六角形グリルと横基調のヘッドライトの構成で横方向に広がりを感じさせ、精悍な顔つきをねらった(Fig. 5)。



Fig. 4 Advanced, powerful exterior design



Fig. 5 Accord sedan exterior

4. インテリアデザイン

インテリアデザインのコンセプトは、1クラス上の上質な空間の中に先進的なドライバーズコクピットと広々とした爽快感を併せ持つ「ADVANCED & COMFORT」とした。まず居住性が大幅に向上した室内をさらに広く快適に感じるように、インストルメントパネルは横基調のモチーフを徹底して強調するような造形とした。また、そこに沿うようにセンタから左右へ広がる加飾パネルを、広さを感じさせる機能として加えた。さらにアッパー部を大胆にネガ面で構成し、ミドルパッド部を低く抑えてボリューム感を減少させることで、従来にない爽快感を実現させた(Fig. 6)。

フロント席左右のディスタンスを広げたことで、センタコンソールとアームレストの幅を拡大できた。これは、空間の広さ感に加えアップスケールに感じる効果がある。幅広

のアームレストには、カップホルダや収納の機能も充実を図り、より豊かで快適に過ごせる空間を実現した(Fig. 7)。

インターフェイスについては、瞬間認知、直感操作の考えに基づき、表示系はできる限り上方に、操作系は手前に配置した。手元での集中コントロールを可能にするためのプログレッシブコマンダーを採用し、ディスプレイを上方の奥に配置することで、運転中の視線移動が減少し、視認性と操作性が向上した先進的なコクピットを実現した(Fig. 8)。

メータは大型で見やすい2眼タイプとし、すっきりとしていながら素材感や本物感にこだわった。またセンタパネル、コンソール周りも余計なラインを極力減らし大きな面で見せることで存在感をアピールしている。シートデザイ

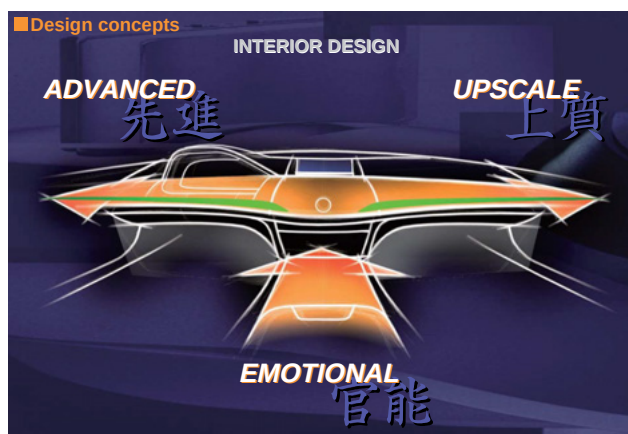


Fig. 6 Advanced, comfortable interior design



Fig. 7 Instrument panel design



Fig. 8 Accord sedan instrument panel

ンについては3次元的にラウンドした造形により、しっかりと包まれるような安心感とリヤ席からの爽快感を両立させた(Fig. 9)。

5. カラーデザイン

5.1. エクステリア

カラーは存在感のあるエクステリアをさらに引き立てる、力強く迫力のあるカラーラインナップと、新色開発を目指した。

新色開発では「BOLD METAL & CHARACTER」というキーワードを設け、硬質な金属感で力強さを表現した。

金属の塊から削りだして磨き上げたような強く輝く粒子感と光輝感を全色に通じる質感のテーマとし、バリエーション全体でみたときも力強さが感じられるラインナップ提案をした。

新規開発のグレーメタリック(ポリッシュドメタルメタリック)は、豊かなボデー形状をより立体的に見せるため、金属のような強い陰影が出ることをねらった。ベージュ系のカラー(ボルドーベージュメタリック)でも従来のベージュとは違った、重量感のあるゴールドの輝きを出した。

その他、しっとりとした深みと陰影のあるバスクレッドパールも新型 Accord にあわせて新規開発した(Fig. 10)。

5.2. インテリア

インテリアデザインのコンセプトである「ADVANCED & COMFORT」を表現するため、プレミアム感と上質感に力を入れた。



Fig. 9 Accord sedan interior

著作権上の理由により非表示

Fig. 10 Exterior colors

ラインナップは、ブラックとベージュ、に加え新規開発のモダンなグレー内装を設定した。それぞれにテーマとキャラクターを持たせることであらゆるお客様の嗜好性に答えられるようにした。ブラック内装は明るいシルバー加飾を合わせてスポーティでクールな印象でまとめ、ベージュ内装は温かみのある内装色に華やかな木目加飾を加えリッチなイメージを出した。またグレー内装は従来よりも明るい色調にして爽快感やプレミアム感をいっそう高めた(Fig. 11)。

6. クーペのスタイリングデザイン

Accordには2ドアクーペの派生モデルがある。(US市場中心。一部中近東)。新型では、Accord のイメージリーダーとしての役割を強化した。縮小するクーペ市場のなかで生き残るには、今以上の魅力が必要と考え、セダンとの外装共用部品を減らし、クーペをより個性的でオリジナリティを強く打ち出す方向へ進化させた。セダンとの違いを強調しながら、同時に Accord ファミリーとして繋がりを感じさせるバランスに配慮した(Fig. 12)。

パーソナルカーとしての性格を際立たせ、セダンより60mm 短いショートホイールベース化により運動性能がみえる骨格となっている。ドライビングポジションのさらなる低位置化とリヤ席空間の再構築により、スリークなキャビンを持ったダイナミックなフォルムを特徴としている。絞りを強めたキャビンによるボデーショルダの張り出しは、



Fig. 11 Interior colors



Fig. 12 Sedan and coupe

このクーペスタイリングの見せ場である。野生動物の脚を支える鍛えられた筋肉のように、しなやかに変化していく塊の面構成は、造形担当者の腕の見せ所である。また、この厚みのあるフェンダとアウトパネルは製造部門のプレス成形技術の高さに支えられて実現している。

フロントまわりは、厚みのある一体型バンパでさらに押し出しの強いものとし、プロジェクタ式ヘッドライトの採用で、セダンとファミリーでありながら、よりシャープで精悍な顔つきとした。リヤまわりも一体感を強調するバンパ造形など、使い勝手優先のセダンに対して、スタイリングのプライオリティを高くし、スポーティな外観となっている (Fig. 13)。

7. 世界の Accord

Accord はアジアにおいても重要な存在となっている。

アジアでは、車そのものの存在価値の違いもあり、Accord は高級車の位置づけとなる。Accord と家が同価格という地域もあるほどである。アップスケールを目指したボデーの大型化は、アジアにおける Accord の役割も考慮したものであった。そのため、エクステリアは過度な加飾の追加などはおこなわず、地域に則した法規対応などの小変更にとどめたが、灯体レンズカラーのクリア化やリヤフォグライトガーニッシュの追加等で熾装品の充実をはかった。

インテリアは、広さ感や爽快感を目指した基本骨格は同じであるが、マテリアルの変更や快適装備の追加によりいっそう上級感を増した個性あるものとなっている。

日本市場では、先代同様 INSPIRE の名称で販売される。



Fig. 13 Accord coupe



Fig. 14 INSPIRE

インテリアカラーは専用のコーディネートを取り入れ、ブラック内装の中に少し色味を持たせた素材を組み合わせることで深みを感じさせている。ボデーカラーもハイライトにやや色味の出るブラック(プレミアムブラキッシュパール)をラインナップし、大人の艶っぽさを表現した (Fig. 14)。

8. 最後に

新型 Accord はセダンの魅力を最大限に引き上げた車である。仕様や名称の違いもあるが、世界中の多くのお客様に豊かさを感じていただける車に仕上がっていると信じている。

空間の拡充、ボデーサイズの大型化をしながらも、空気抵抗の低減やVCM⁽¹⁾などの技術により、燃費も改善している。

この新型 Accord の方向性が、めまぐるしく変化する世界の環境・経済状況に適合するかを判断するには、もう少し時間が必要だろう。Honda が Accord という車を通じ、長い時間をかけて築き上げてきたお客様との信頼関係が、より一層深まることを願っている。

参考文献

- (1) 瀬川誠, 熊谷和英, 佐藤隆治, 田村勇一, 藤原幹夫:
V6 新可変シリンダシステムエンジンの開発, Honda
R&D Technical Review, Vol.20, No.1, p.33-39

■著 者■



澤井大輔



萩原泰一



田上秀樹



荒木圭一